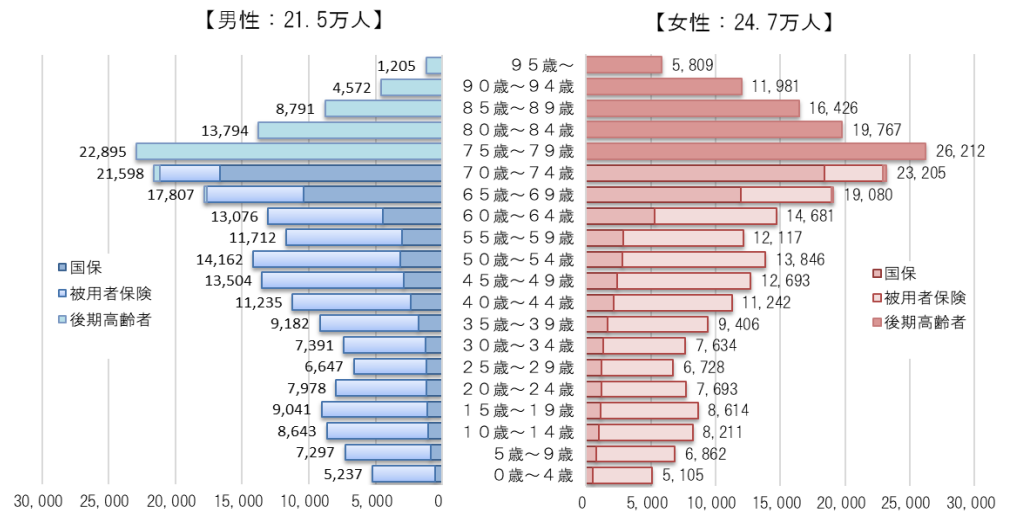


県内19市町村国民健康保険、島根県医師国保組合、全国健康保険協会島根支部、島根県市町村職員共済組合、後期高齢者医療広域連合の令和7年5月診療分レセプトデータを分析しました。

1. 加入者数、レセプト件数、費用額

制度	性別	加入者数(人)	レセプト件数(件)	費用額(円)
国保	男性	52,114	51,102	2,653,797,709
	女性	54,511	59,684	2,025,915,951
	計	106,625	110,786	4,679,713,660
	(%)	(23.0)	(23.1)	(23.6)
被用者保険	男性	111,767	78,940	2,142,401,461
	女性	112,186	92,773	2,073,608,515
	計	223,953	171,713	4,216,009,976
	(%)	(48.4)	(35.7)	(21.3)
後期高齢者	男性	51,886	79,056	4,965,573,077
	女性	80,615	119,010	5,953,537,486
	計	132,501	198,066	10,919,110,563
	(%)	(28.6)	(41.2)	(55.1)
合計	男性	215,767	209,098	9,761,772,247
	女性	247,312	271,467	10,053,061,952
	計	463,079	480,565	19,814,834,199

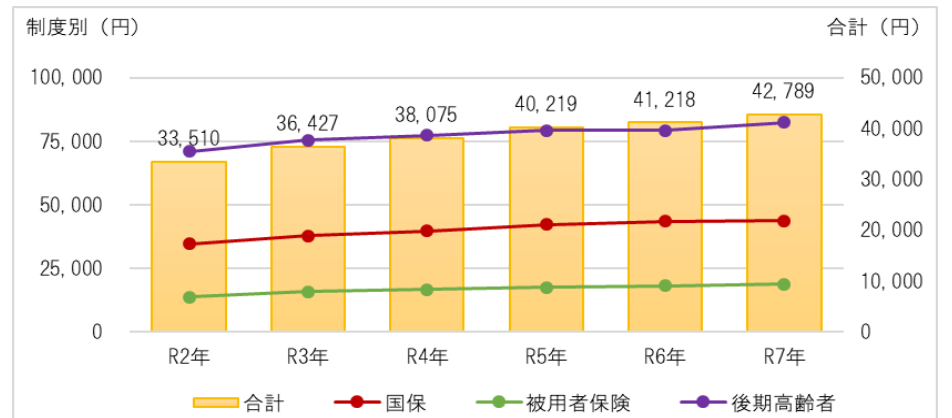
【男女別年齢階層別加入者数】



2. 1人あたり費用額 (費用額/加入者数) (円)

制度	性別	入院	入院外	歯科	合計
国保	男性	26,316	22,646	1,961	50,923
	女性	15,364	19,414	2,387	37,165
	計	20,717	20,994	2,179	43,889
被用者保険	男性	6,069	11,491	1,609	19,168
	女性	4,878	11,734	1,872	18,484
	計	5,472	11,612	1,740	18,825
後期高齢者	男性	53,446	39,818	2,438	95,702
	女性	42,168	29,575	2,108	73,851
	計	46,584	33,586	2,237	82,408
合計	男性	22,352	20,997	1,893	45,242
	女性	19,345	19,242	2,063	40,649
	計	20,746	20,060	1,984	42,789

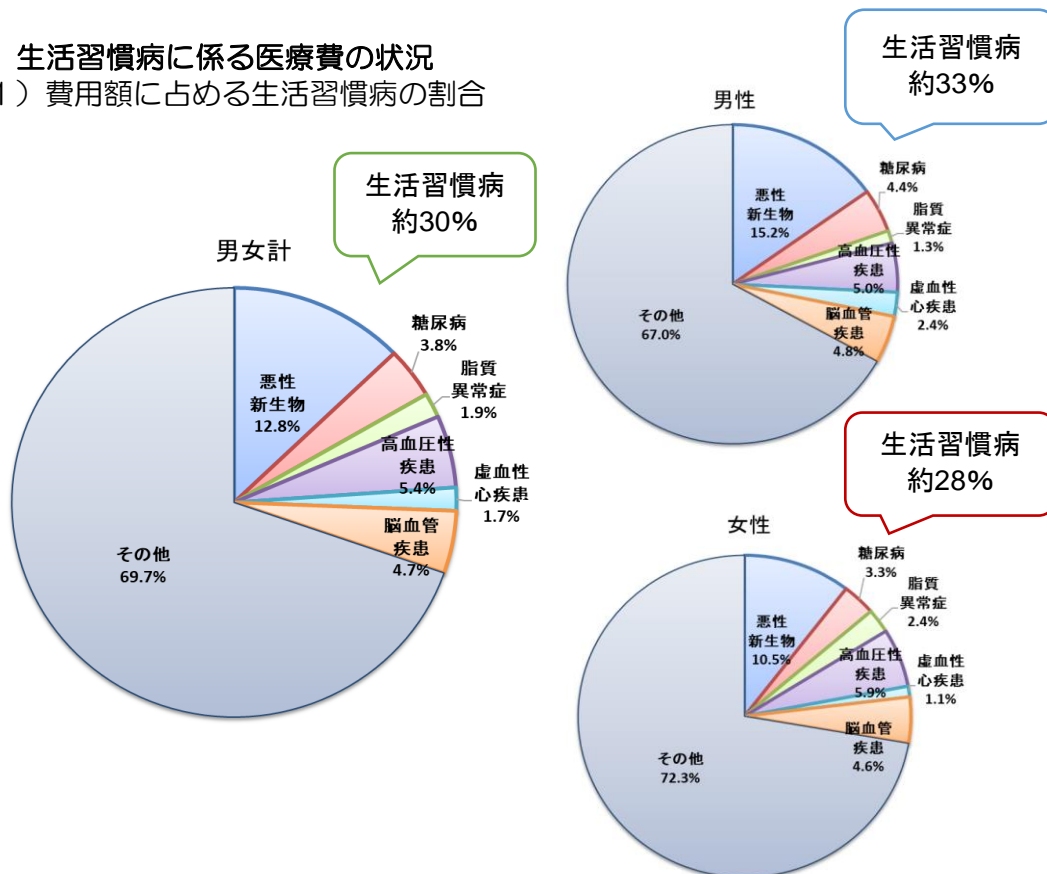
【1人あたり費用額の推移】



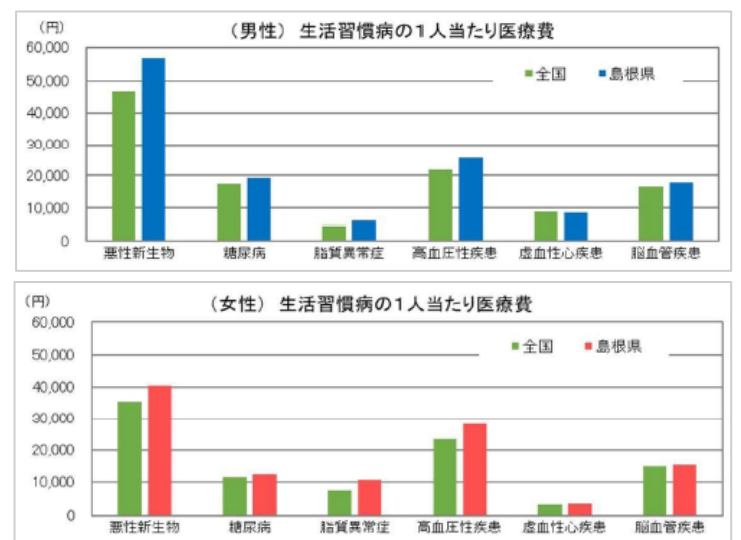
約46万人のデータを分析対象としました。これは同時期の島根県の人口の約73%に相当します。レセプト件数は約48万件、費用額は約198億円でした。費用額のうち後期高齢者の占める割合が最も高く、加入者数に占める割合を大きく上回っています。1人あたり費用額は、男女別にみると男性が高く、診療区分別では入院が最も高い状況であり、毎年、増加しています。

3. 生活習慣病に係る医療費の状況

(1) 費用額に占める生活習慣病の割合



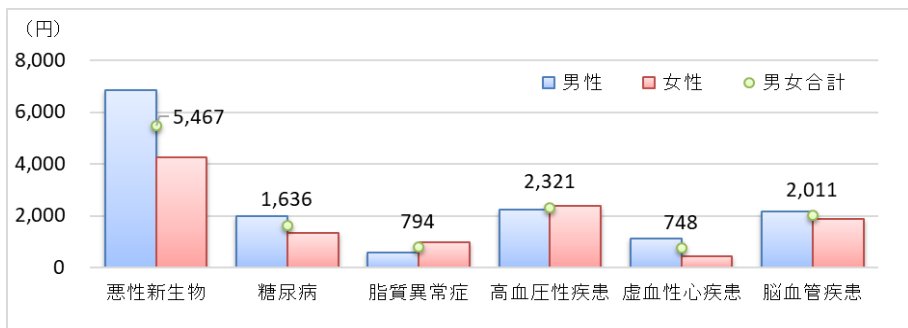
【1人あたり費用額(島根県と全国:参考資料) ※令和5年度の状況(NDBデータ)】



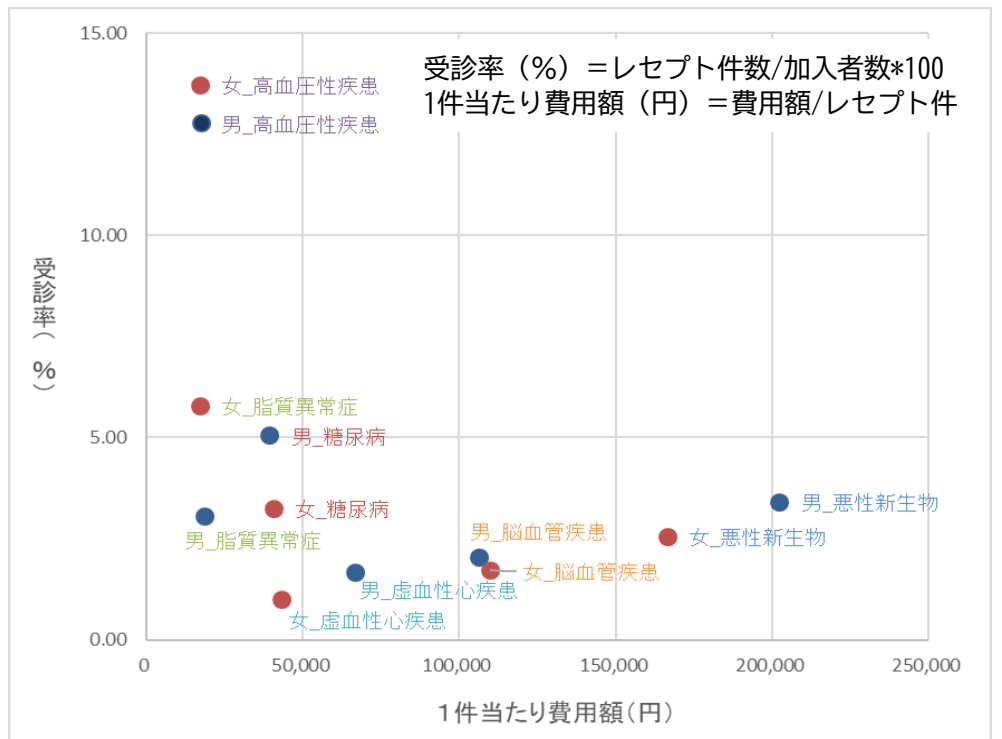
総費用額の約3割を生活習慣病が占めており、男女別にみると男性が女性を上回っています。疾病別では男女とも悪性新生物が最も高い割合を占めています。なお、島根県と全国を比較すると、ほとんどの疾病で、全国より高い状況です。

(2) 生活習慣病に係る医療費諸率

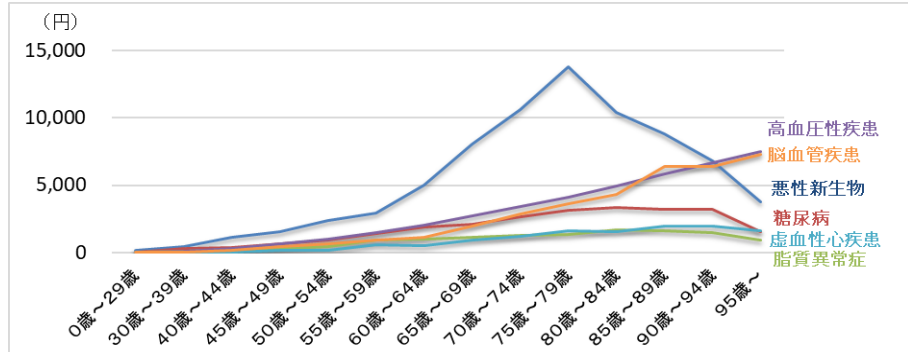
【男女別1人当たり費用額】



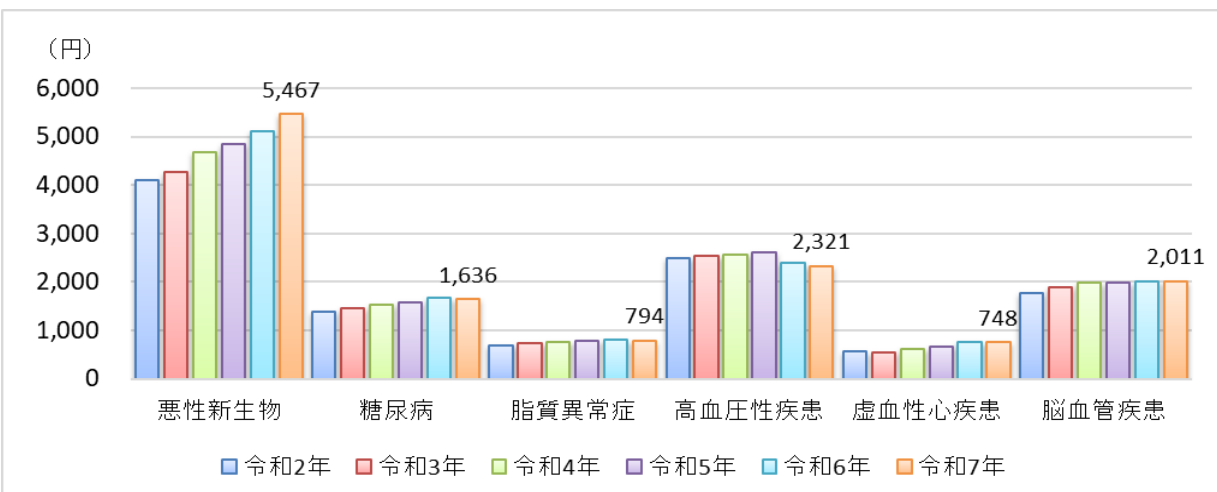
【男女別受診率と1件当たり費用額の相関】



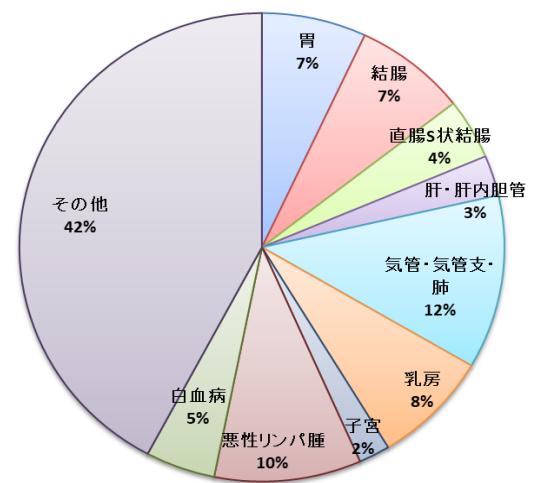
【年齢階層別1人当たり費用額 (男女計)】



【1人当たり費用額の推移 (男女計)】



【悪性新生物部位別費用額割合】



1人当たり費用額は「悪性新生物」が最も高く、「高血圧性疾患」、「脳血管疾患」と続いています。なお、ほとんどの疾病で加齢とともに増加の傾向がみられますが、「悪性新生物」は75歳～79歳を境に減少に転じています。受診率と1件当たり費用額の相関をみると、「高血圧性疾患」は、男女ともに受診率が高いことから、生活習慣病のなかで特に受診者数が多いことがわかります。対して、「悪性新生物」は、受診率が低い一方で、1件当たり費用額が高いため1人当たり費用額が高くなっているものと考えられます。

1人当たり費用額の推移をみると、「悪性新生物」は年々増加しており、その他の疾病は前年度から微減しているものの「糖尿病」、「脂質異常症」及び「虚血性心疾患」は、令和6年度までは増加傾向がみられます。

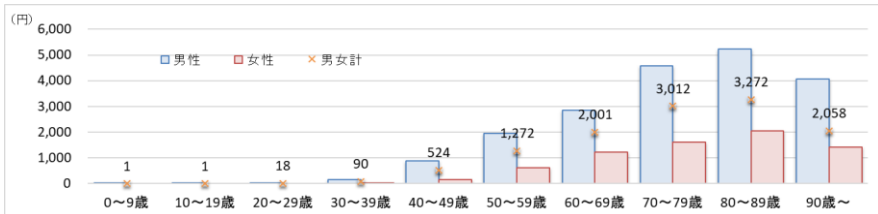
また、悪性新生物について部位別の費用額割合をみると、「気管・気管支・肺」、「乳房」、「直腸S状結腸」などが高い状況です。生活習慣病に係る1人当たり費用額は加齢とともに高くなる傾向がみられますが、1人当たり費用額が最も高い悪性新生物に関しては、がん検診で早期発見できる部位もあります。

⇒⇒元気に年齢を重ねるためには、若い年代からの特定健診、がん検診受診率向上とともに生活習慣を見直すきっかけづくり等の取り組みが必要です。

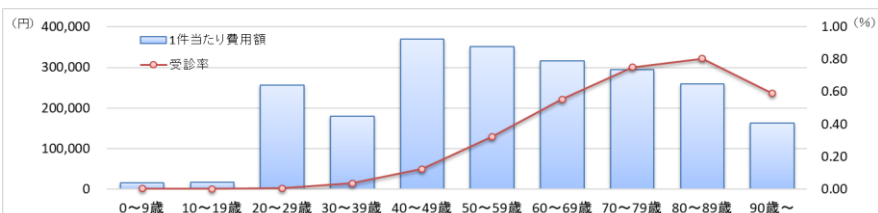
4. 1人当たり費用額が高い疾病 (生活習慣病以外)

(1) 腎不全

【男女別1人当たり費用額】

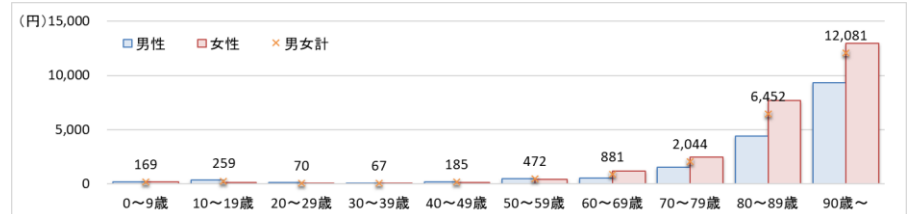


【受診率及び1件当たり費用額】

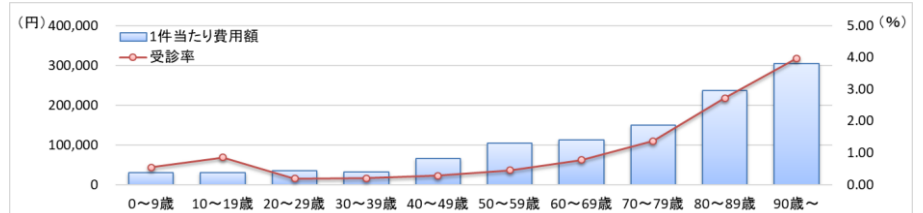


(2) 骨折

【男女別1人当たり費用額】



【受診率及び1件当たり費用額】



「腎不全」の費用額には、人工透析に係る費用が含まれます。1人当たり費用額を男女別にみると男性が高く、男女とも80歳代が最も高い状況です。

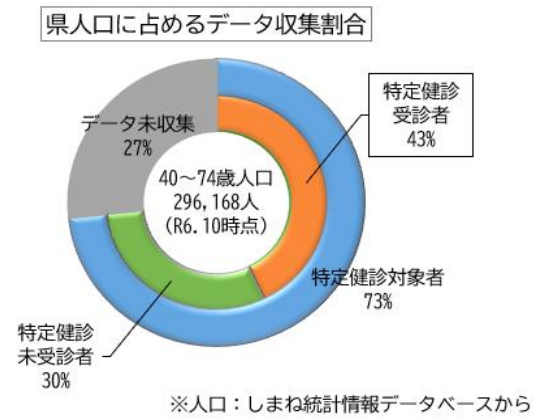
「骨折」の1人当たり費用額を男女別にみると、女性が高く、受診率、1件当たり費用額とともに、加齢に伴い高くなっています。

「腎不全」、「骨折」とともに、若年層からの対策が必要です。

県内19市町村国民健康保険、島根県医師国民健康保険組合、全国健康保険協会島根支部、島根県市町村職員共済組合の令和6年度特定健康診査結果データを分析しました。

分析に有効なデータすべてを対象としているため法定報告値とは異なります。

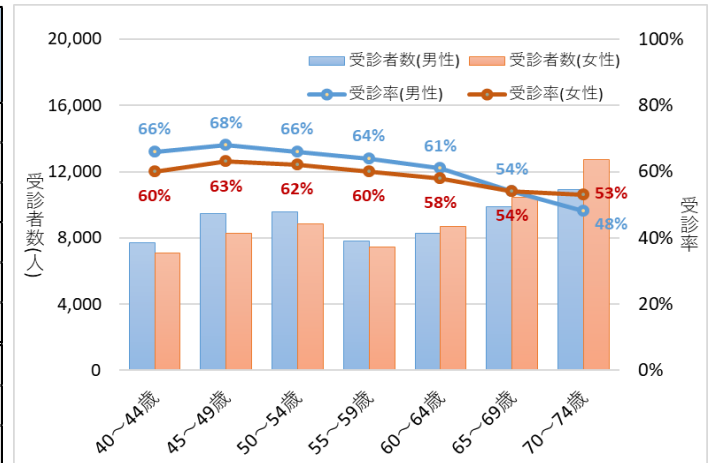
1. データの収集状況



2. 特定健診対象者数等

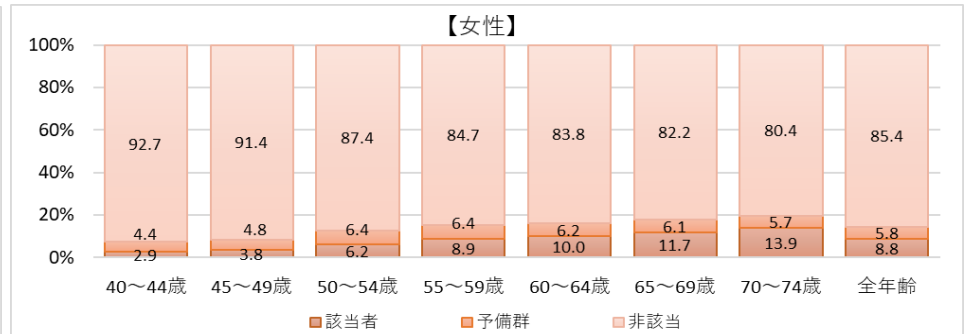
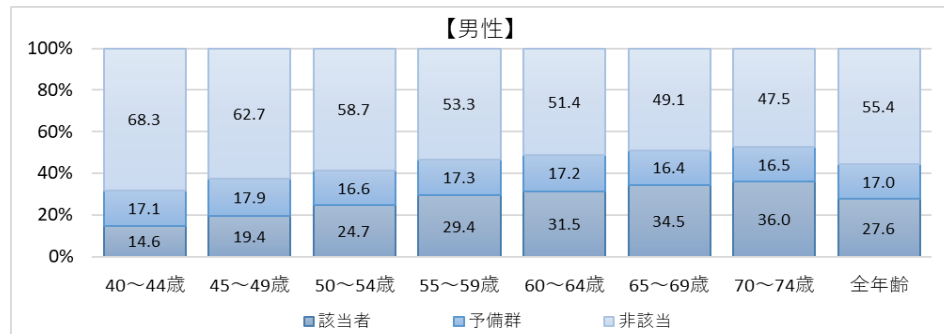
制度	性別	特定健診対象者数(人)	特定健診受診者数(人)	受診率(%)
国保	男性	47,111	17,088	36.3
	女性	50,130	21,942	43.8
	計	97,241	39,030	40.1
被用者保険	男性	59,483	46,495	78.2
	女性	60,349	41,567	68.9
	計	119,832	88,062	73.5
合計	男性	106,594	63,583	59.6
	女性	110,479	63,509	57.5
	計	217,073	127,092	58.5

【男女別特定健診受診者数・受診率】



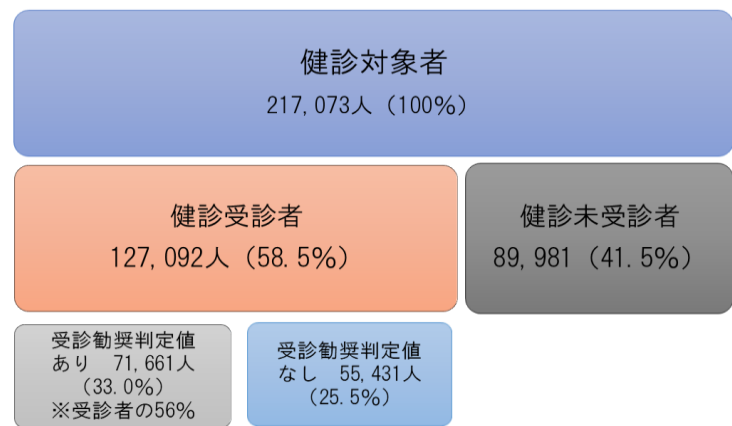
3. 健診結果

(1) メタボリックシンドローム該当者・予備群の状況

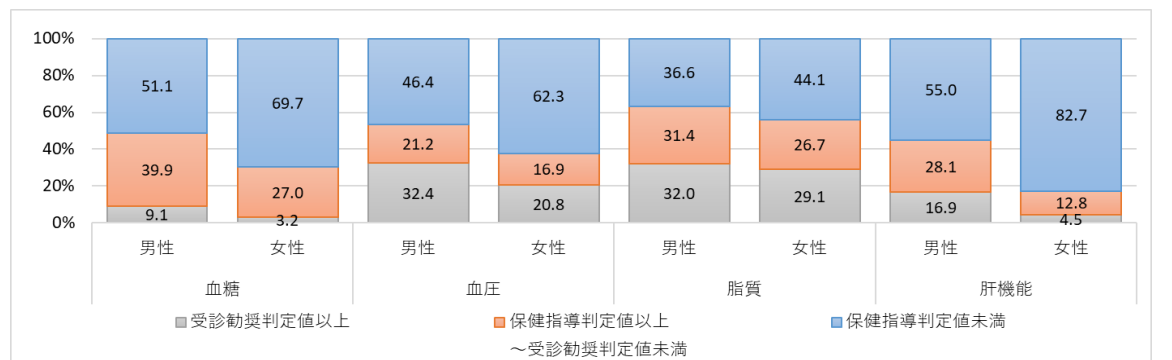


本統計で取り扱う健診結果データは、令和6年10月時点における島根県の40～74歳人口の約43%に相当します。本統計における特定健診受診率は58.5%（国保 40.1%、被用者保険 73.5%）です。受診者数及び受診率を性年齢階層別にみると、男女とも受診者数は70～74歳が最も多く、受診率は年齢が高くなるにつれ低くなっています。メタボリックシンドローム該当者・予備群の割合は、全ての年齢層で男性が女性を大幅に上回っています。

(2) リスク保有状況



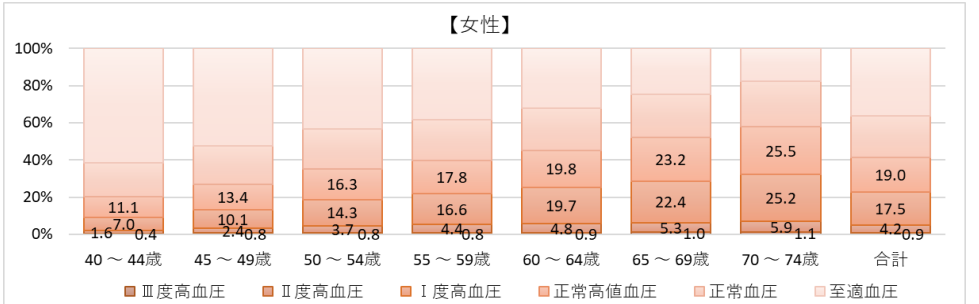
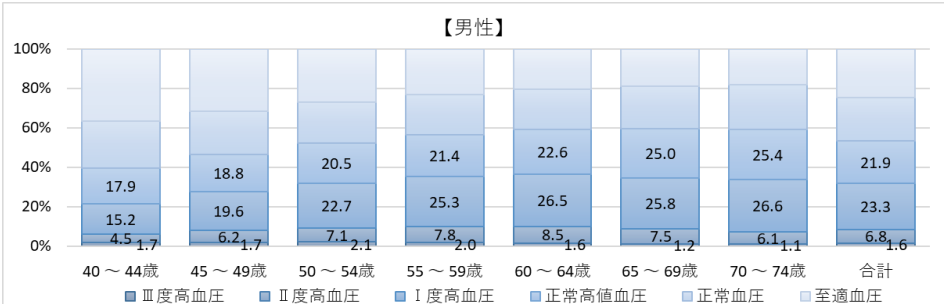
【男女別リスクの状況】



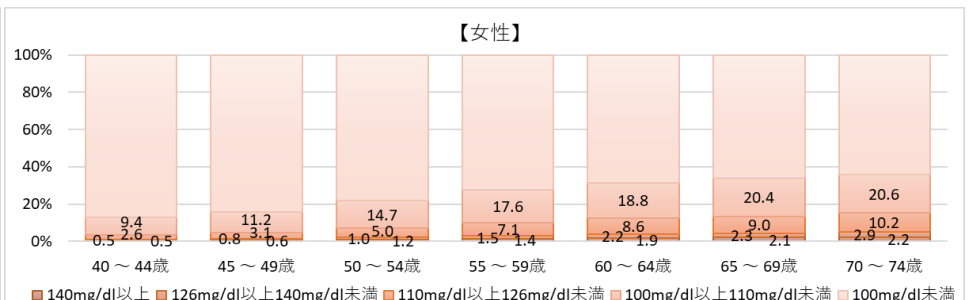
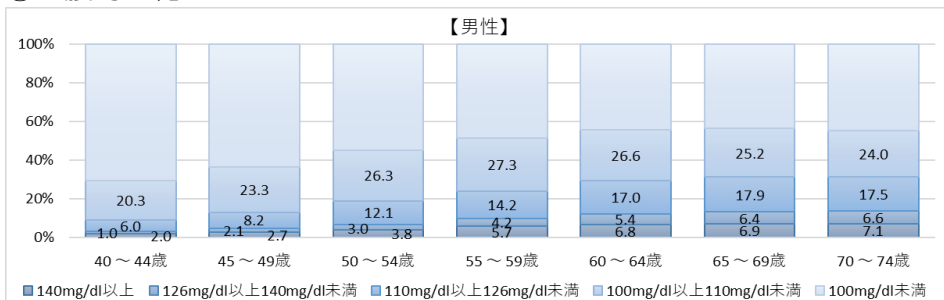
※リスク判定基準は、報告書P40参照

(3) 検査結果

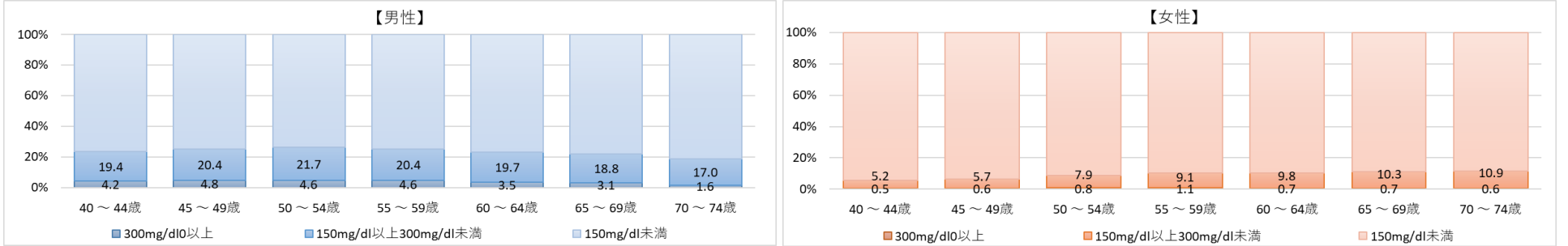
①血圧分類



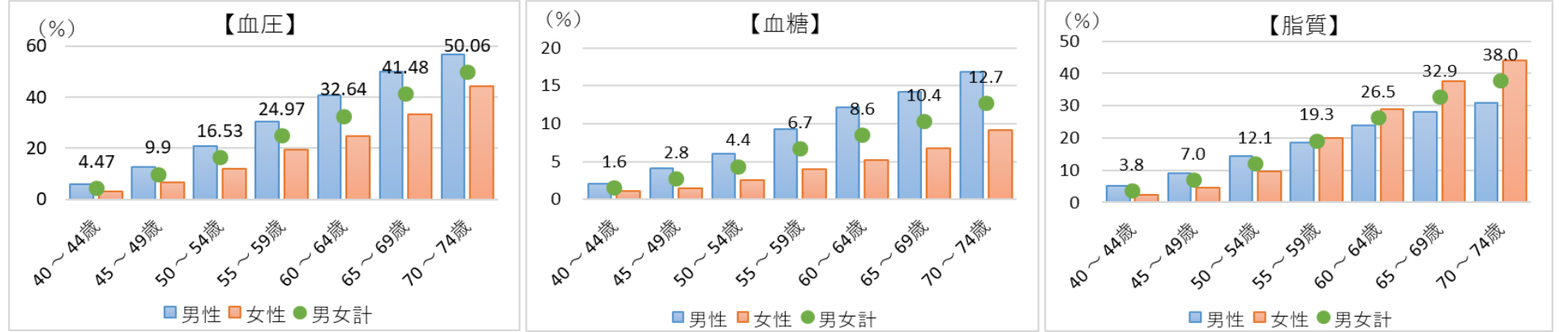
②空腹時血糖



③空腹時中性脂肪

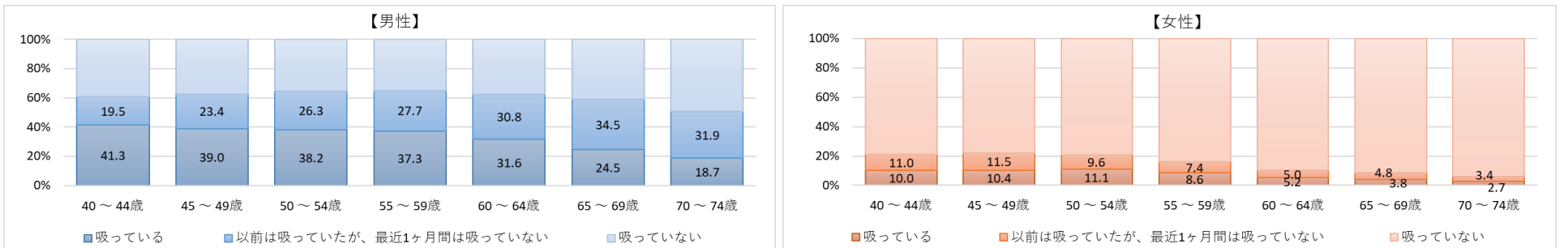


【参考（男女別内服者割合）】

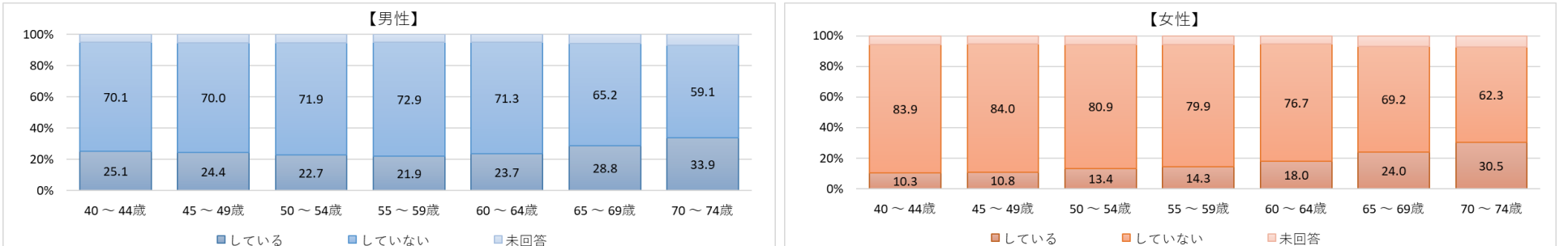


(4)生活習慣（質問票の回答）

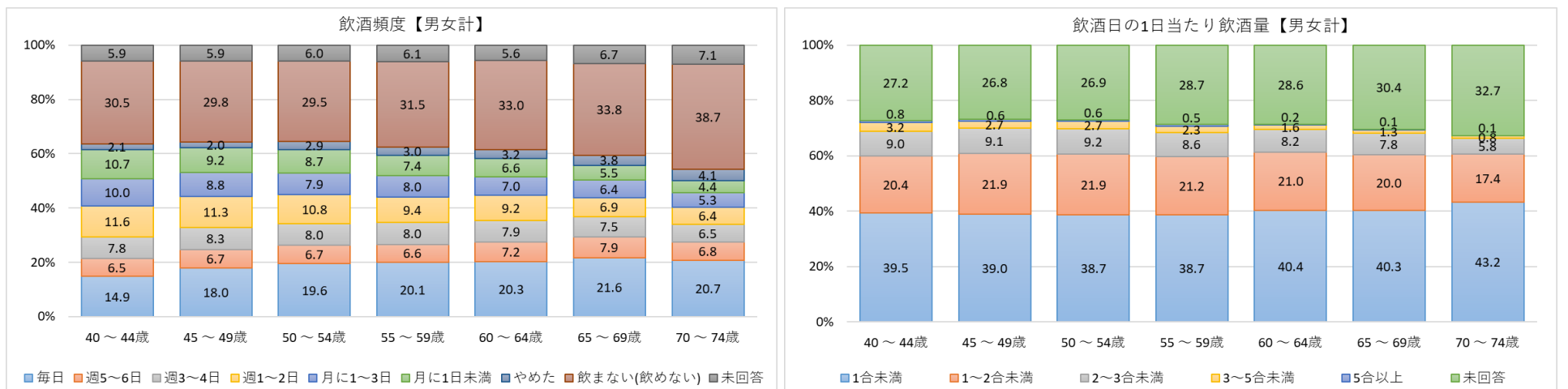
①喫煙



②週2日以上の運動習慣



③飲酒習慣



検査結果を男女別にみると、血圧、空腹時血糖、空腹時中性脂肪のいずれも異常値の割合は男性が女性を上回っています。また、生活習慣の面では、男性は喫煙習慣がある、女性は運動習慣がない人の割合が高い状況にあります。生活習慣病のリスクは加齢に伴い増加していくため、運動や飲酒等、生活習慣の見直しによるリスク軽減に向けた取り組みが求められます。

課題 【医療費】生活習慣病が3割を占めており、がん、高血圧性疾患に係る医療費が高い。 【健康状態】生活習慣病のリスク保有割合が高い。
【生活習慣】男性の習慣的喫煙者の割合が高い。運動習慣のない人の割合が高い。

対策(案)

- 生活習慣の見直し、健(検)診受診の重要性等、若年層からの健康増進、疾病予防等にかかる情報について周知し、県民の健康意識の向上を図る。
- 特定健診・保健指導実施率向上による生活習慣病(重症化)予防につなぐ。 ○がん検診受診率向上による早期発見・早期治療につなぐ。
- 禁煙や減酒、運動習慣に関する対策を講じ、生活習慣病の罹患予防につなぐ。 ○筋力低下対策等による転倒・骨折予防を行う。